「桜の樹」ニュースレター　vol 24

岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　2023.7

「母と私とお外のイス」　　ハル

カリフラワーがもくもくと広がるように膨らむ雲が見える。夏の初めの雄大雲が、日の光に反射して真っ白に輝き、青空とのコントラストが冴え渡る。手作りの木の椅子が私の特等席だ。もう随分前だなあ

よく晴れた日に私は駐車場のど真ん中に座っていた。その頃私は神奈川県の川崎というところに両親と一緒に住んでいた。南武線が走る登戸駅の近くだ。都内に勤める会社員のベッドタウンで都会に近い割には、田舎の雰囲気がたくさん残る梨畑が広がる街だった。2棟並ぶ古いアパートの前には住人用の　駐車場が広がり車の出入りの少ない日中はアパートの子供たちが遊ぶスペースになっている。よく晴れた午前中に、母親に手を引かれその駐車場に置いた椅子に連れて行かれる。

「お母さんが来るまでここに座っているんだよ」二間しかない狭い部屋の中で母親にくっついて回る私が掃除の邪魔になるものだから、掃除の日にはここに連れてこられるのだ。父親の作った「お外のイス」に座って、目の前に広がる空や雲や飛行機とか

通りを走る車とか目の前の梨畑を、ただぼんやりと眺めて過ごす。私自身も日向ぼしされていたんだな。

見上げると大きな雲が夏の気配を運んでいる。眩しくて目を細める。閉じても太陽の光が瞼の裏に残ってる。

大きな音でオルゴールの音楽を鳴らしながらどこからかゴミの収集車がやってくる。空を駆け上がるような軽快なピアノのメロディが青い空や白い雲にマッチする。その曲がショパンのノークターンだとあとになって知った。

あの空はどこまで続いているんだろう　キラキラ輝いて　ずうーっと見てると何だか眠たくなってくる。

あのずっと向こうの空の下には誰がいるのかな。考えてもわからないことを思いながら目を瞑っていると、掃除を終えた母親が迎えにくる。

半世紀も前の初夏のよく晴れた日のことを今でもよく覚えている。

今日のような日だったかな

あの空の向こうのほうに、麦わら帽子をかぶった私が古ぼけた椅子に座っているのかな。誰も彼も入れ替わり私自身も大人になってしまったけど、この空と雲に見覚えがある。

天ぷらは自宅で作りますか

ミニオン

買った方が早い。美味しく食べられる。

自分で作るとヘナってなってカラッと上がらない。だけど・・・

だれが揚げてもカラッとできて「サクサク」裏技を教えてあげましょう。

天ぷら粉に「タピオカ粉」を三分の一から半分まぜましょう。これで美味しくできます。さらに上手にするには、お水に炭酸水を加えて。プロは冷たい水を使う。

これができれば　あなたもプロの天ぷら職人。

かき揚げ。野菜。

海鮮(よく水を切ってキッチンペーパーですいとってから)イカ、エビなどは、中に水が入っていたら油がはねますから気をつけて。

天つゆや塩で、これからは冷やした麺でツルツルと。爽やかに。

どうぞ
お試し下さい。

こんにちは。宮里すみ子です。

6 月 7 日の診察で点滴治療を止め、飲み薬 「TS1」 を服用することになりました。 丸五日間服用しましたが食欲不振がひどく、 先生と相談の結果 28 日の診察日まで服用を中止することになり現在に至っています。 服用を中止してから割合身体は動くようになりましたが、食欲は戻って来ません。これは食べられそうだと思っても一口で、もう食べる気がしません。お腹が 少しでも空くと嘔吐感がありますのでなんやかや少しずつ食べてはいますが・・。友人が明治の「メイバランス」を教えてくれてそれを飲んでいます。

こんな状態の中で、 気掛かりが二つあります。内容は同じなのですが、自分のこの状態、すい臓ガン末期であることを伝えられていない友人が二人い るのです。

一人目は 19 歳から友達になり最近こそ年二回ほどしか逢っていません一番の親友であることに違いありません。同い年でもあり、きっと大ショックを受けるだろうと思うとなかなか言えずにいます。彼女は熱狂的な阪神ファンでもあり、今年の好調を(現時点では) 楽しんでいるだろうと思うとますます出来ません。

もう一人は元職場の若い友人で、私を大阪のお母さん、彼女の二人の子ども達には大阪の祖母とも思ってくれている人です。

けれども、いくらなんでももう伝えなければいけないと思っています・・。 28 日の診察を受けてから連絡しようと思います。 頑張ります。

明後日(25 日) はまた、長女の家で BBQ をします。病になってから家族は、常に全てを私中心に行動してくれます。 家族に恵まれたことは何物にも代えがたい幸せです。ですからすっかり安心しています。

編集後記　　さくら(かえる)

今回ニュースレターを編集する前、私自身激痛のため身動きがとれずにいました。その中、皆さんが変わらずに寄せて下さる原稿を目にして、それぞれの皆さんの個性に触れ、愛に触れ、癒され、力を感じ、勇気を頂きました。まさに、このニュースレターを始めたきっかけ、「紙面上でもカフェを！」が成立していることを実感しました。皆さんに感謝の想いでいっぱいです。まだまだ頑張ります！どうぞよろしくお願いいたします。

編集：岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　山本　ひろみ

gantetu_sakura@yahoo.co.jp　https://sugamo-sakura.com/

後援：一般社団法人がん哲学外来

果てしない空にも　　凪ちゃん

今回は 24 歳で亡くなった詩人、
立原道造(たちはなみちぞう)さんの詩を紹介します

「夢みたものは」　　立原道造

夢みたものは　ひとつの幸福
ねがったものは　ひとつの愛
山なみのあちらにも　しずかな村がある
明るい日曜日の青い空がある
日傘をさした田舎の娘らが
着かざって唄をうたっている
大きなまるい輪をかいて
田舎の娘らが踊りをおどっている
告げてうたっているのは
青い翼の一羽の小鳥
低い枝でうたっている
夢みたものはひとつの愛
ねがったものはひとつの幸福
それらはすべてここにあると

大きなまるい輪をかいて踊っているという表現がありました。輪は、循環し続ける限り、終わることはありません
人と人のつながりを重ねているように思います。

しずかな村の明るい日曜日の青い空がある。
青い翼の小鳥が低い枝でうたっている。

愛や幸福は果てしない空にも、手に届きそうな低い枝にも存在しているのだといっているのかもしれません。

私の生きる源の一つともいえる青空。青い空は明るく、果てしなく続いています。そしてどんなに遠く離れていても一度繋がった輪はいつまでもまわり続けていくのだと、この詩は教えてくれています。